

令和 3（2021）年 7 月市長定例記者会見の概要と質疑応答

令和 3（2021）年 7 月 7 日（水曜日）
午前 11 時～午後 0 時 28 分
柏崎市役所多目的室

1 発表事項

(1) 新型コロナワクチンの接種の状況と今後についてお知らせします

（主管：健康推進課）

最初に、現在の接種状況をお話しします。昨日 7 月 6 日までの状況です。現在、65 歳以上の方々と高齢者等施設入所者 28,944 人を対象に接種を進めています。1 回目を接種済みの方が 24,749 人で接種率は 85.5 パーセントです。2 回目を接種済みの方が 12,829 人で接種率は 44.32 パーセントです。90 パーセント近い方が 1 回目を接種済みで、半数近い方が 2 回目を接種済みという状況について、ここまでは極めてスムーズではないかと考えています。今申し上げた対象の 28,944 人の中で接種を希望する方は、7 月 10 日までに 1 回目接種は全て終わります。国との約束である 7 月末までの 2 回目接種も、7 月 31 日までに終わります。柏崎市は国との約束を果たします。

続いて今後のスケジュールです。公立・私立問わず保育園、幼稚園などの職員への接種を 7 月 4 日から順次始めています。接種希望者は 653 人です。11 日からは児童クラブの支援員への接種を始めます。60 歳から 64 歳の約 5,300 人の方には本日 7 月 7 日から接種券を発送し、7 月 12 日から予約を始めます。予約方法は、65 歳以上の方々と同様に電話とインターネットでの予約となります。現役世代に近い、もしくは現役世代の方々ですので、インターネットでの予約が多くなるだろうと承知していますが、電話のオペレーターも増員していますので、電話でも大丈夫です。接種は 7 月 17 日から始まります。

ここまでは、関係者の方々のご協力で非常にスムーズにきています。しかし、16 歳から 59 歳の方々には、7 月 15 日から接種券は発送しますが、まだ予約を始められる状況にはありません。また、12 歳から 15 歳の約 2,600 人の方については、国の方向性を見ているところです。

64 歳以下の方については、年齢を区切って接種を行う予定です。各年齢の区分の中で、基礎疾患を有する方の接種を優先します。基礎疾患の有無は自己申告制です。接種会場は、旧市役所、柏崎総合医療センター、国立病院機構新潟病院、柏崎厚生病院、柏崎中央病院で、8

月からは稲田医院、さとう内科クリニック、中沢消化器科内科医院、西山ふれあいクリニック、野田診療所、北条診療所、高柳診療所、谷根診療所が加わります。

また、働く世代の方々のために夜間の接種が必要だろうということで、関係機関の了解を得ましたが、ワクチンの供給が不透明なため、当面は夜間接種の実施を見送らざるをえません。

次に、国の職域接種です。本市には国公立の大学はありませんが、私立の新潟工科大学が手を挙げ、設定していただきました。学校医の本間先生や市内の医療関係者のご協力をいただき、産業大学も含めて、教職員、学内従事者、学生の約千人を対象に7月10日から8月にかけて全10回の接種が始まります。ワクチンはモデルナです。

次に、16歳から59歳の方々約3万5千人の接種がいつできるかわからないという状況に至った原因であるワクチンの供給不足についてお話しします。柏崎市には8月分の接種のワクチンは供給されています。しかし、6週間も7週間も余らせているような状況ではありません。昨日、河野大臣が会見を開き、国は都道府県を通してワクチンを地方自治体に配っていますが、ワクチンを抱えている自治体があるとおっしゃっていました。つまり、どこかにストックとして有効に使われていないワクチンがあるということです。私どもは、新潟県の市長会を通して、改めて国・県に要望書を出していただきたいと思います。

6月9日、国会の場で首相が全ての対象者の接種は10月、11月には終わらせるというお話をされました。それを受けて、柏崎市は10月下旬までに市内の希望者全員の接種終わらせる計画を作るために、医師会、看護師会、薬剤師会、関係者の皆さんにお願いし、お金や会場の算段もして、柏崎市議会と合同臨時会見で10月末までの接種完了を皆さんにお知らせしたところです。しかしその後、国からワクチンの供給が全国的に滞り、職域接種でのモデルナのワクチンの不足などもあって、市町村分にもしわ寄せがきています。全国市長会会長からは、全国市長会として市町村分を優先してもらいたいと国に要望していただきましたが、国も想像以上に短期間で多くの職域接種の申し込みがきたので、職域接種を一旦停止して再開の見込みも立っていない状況です。

私が申し上げることではないのですが、職域接種をやる方々も国からやれと言われたので人数を集めて組んだのに、今度はワクチンがないと言われても困ると思います。結果的に、本来職域接種はモデルナで行われるはずだったのが一部ファイザーも使われることとなります。市町村の集団接種に使うファイザーがどんどん少なくなります。9月上旬にファイザーが来るのならいいですが、9月下旬だとするならば、それからまた改めて先生方の日程を取

り直して、会場を確認して、柏崎市で言えば 16 歳から 59 歳までの約 3 万 5 千人の方々に予約をお願いしなければなりません。それでは 10 月末までに終わるはずはありません。国が言うようなペースでワクチンが来た場合、柏崎市はいつごろ終わるのかを担当者にシミュレートしてもらったところ、2 カ月遅れの 12 月 20 日ごろまでかかってしまうということでした。

ワクチンは確かに 9 月に来るかもしれませんが、明確にいつ来るか分からないワクチンをベースに市民の皆さんに予約していただくことはできません。早く方向性を出していただかないと、全国民の希望者が 10 月、11 月にワクチン接種を終えるのは地方自治体としてできない状況になります。65 歳以上の方々の接種も、首相の一言で当初予定では 8 月上旬までかかるところを前倒しして 7 月下旬に間に合わせるようにしました。国にもなんとしてでも 10 月、11 月までに自治体の業務も含めて市民の皆さんの接種が終わるようにワクチンを供給してもらいたいという要望を、県市長会を通して出したいと思います。また、もし県内の自治体で、ワクチンを打ちたいけれどもなかなか体制ができなくて、まだワクチンがあるというところがあれば、河野大臣が会見でお話ししていたように、新潟県から調整していただいて、ミスマッチを解消していただきたいと考えています。

(2) 柏崎から東京 2020 オリンピックに出場する 6 名を応援しよう！

(主管：スポーツ振興課)

水球から志水祐介さん、棚村克之さん、稲場悠介さん、小出未来さん、津崎明日美さん、セーリングから富澤慎さんがオリンピックに出場されます。心から喜び、応援したいと思っています。パブリックビューイングなども考えましたが、こういう状況ですのでやめました。応援用のうちわを作製し、スポーツ振興課、アクアパーク、総合体育館などで配布しますので、市民の皆さんからご自宅で応援していただければありがたいと思っています。

セーリングは 7 月 25 日から始まり、31 日が最終メダルレースになる予定です。

水球女子の初戦は 7 月 24 日、男子の初戦は 7 月 25 日にどちらもアメリカ合衆国と戦います。

(3) モンテネグロとセルビア共和国の水球男子代表チームが柏崎市で東京 2020 オリンピック事前合宿

(主管：水球のまち推進室)

練習会場はアクアパークで、7 月 16 日から 22 日までモンテネグロとセルビア共和国の水球男子代表チームが事前合宿を行います。宿泊会場は公表できませんので、ご容赦いただき

たいと思います。今回セルビアでは、他のチーム種目の中で新型コロナウイルス感染症の陽性者が出ましたが、そういったことを問わず、セルビアとモンテネグロはそれぞれ市民と接触しない、いわゆるバブル方式をとります。アテンドスタッフは、それぞれのチームに市職員を1人ずつ配置します。アテンドスタッフの職員2人は、合宿後1週間は自宅待機とし、自宅からリモートで勤務します。この事前合宿を成功させて、2022年に福岡で開催される世界水泳選手権のプレ大会を柏崎で開催することを目指しています。

(4) 元気発信スタンプラリーをラリー用紙とアプリで開催－当選総額は2,120万円！昨年度比800万円アップ

(主管：商業観光課)

昨年、好評いただいた元気発信スタンプラリーを、今回はより参加しやすい設えとしました。昨年は4個のスタンプで1回応募できるものでしたが、今回は3個のスタンプで応募できます。さらに、当選総額は2,120万円で、昨年と比べて800万円アップしました。また、昨年と違う点として、かしチケ元気発信スタンプラリーアプリを開発していただきました。使い方は簡単で、非常に便利です。アプリ利用者限定で、2万円の商品券が60本当たります。商品券は、昨年と比べて1万円券よりも5千円券の数を多くしましたので、昨年よりも多くの皆さんが当選すると思います。対象店は、現在270店舗の応募があります。

(5) 入学祝い金事業を創設－柏崎市内看護学校に入学する学生を応援します！

(主管：国保医療課)

市内には看護学校が独立行政法人国立病院機構新潟病院附属看護学校の1つしかありません。3年制の学校で、柏崎市にとって大切な学校です。毎年、卒業生の7割ほどが市内で看護師になっています。柏崎市は看護師が不足していますので、新潟病院附属看護学校に入学する方を応援させていただきたいと思います。

具体的には、入学祝い金を市内出身者の方には20万円、市外の方々には10万円を差し上げるというものです。また、学校も授業料を40万円から20万円に引き下げるとのことです。

本来、議会の令和4(2022)年度予算で審議いただくものですが、これからが進路を決める大事な時期だということで、先般の常任委員会、委員協議会でも説明し、了解を賜りました。

(6) 市内小学 6 年生が体験航海を行います！－柏崎港開港 50 周年記念

(主管：道路河川課)

私は港の近くに住んでいるので、子どもの頃はソ連船が木材を積んで、埠頭は木だらけでした。平成になり、クルーズ船の飛鳥を何回か呼んで、この番神の港から出航した歴史があります。最近では、中越沖地震で災害があったときの物資の保管港として機能しました。

その柏崎港が今年、国際貿易港として開港 50 周年を迎えました。それを記念して、海上自衛隊舞鶴地方総監部の総監に直接お願いし、8 月 3 日、4 日の 2 日間で、市内の小学 6 年生約 600 人、引率者、関係者 100 人の計 700 人が体験航海を行います。海上自衛隊舞鶴地方総監部からは、子どもたちのためにということで、掃海艇「すがしま」「あいしま」を出していただきます。子どもたちからは、柏崎の海から柏崎の町を見てもらいたいと思います。天候が悪ければ中止の可能性もありますが、新型コロナウイルス感染症対策をして、安全性を確認しながら行いたいと考えています。

(7) 令和 2 (2020) 年度消費生活センターへの相談状況－相談件数は 613 件、斡旋解決による救済額は 2,311 万円

(主管：市民活動支援課)

令和 2 (2020) 年度の消費生活センターへの相談件数は 613 件、斡旋解決救済額は 2,311 万円です。相談件数が減っているのは、架空請求はがきの相談が前年度の 152 件から 3 件に減ったことが大きな理由です。昨年の特徴としては、コロナ禍での巣ごもり生活の定着からインターネットの通信販売などの相談が多くみられたことではないかと思います。非常に地道な活動をしていただけていますが、これに助けられたという救済額が 2,311 万円ですので、私どももこのセンターの存在はありがたいと認識しています。

(8) マイナンバーカードを申請して米山プリンセスをゲット

(主管：市民課、農政課)

(9) 県内初！郵便局でマイナンバーカードの交付申請ができます

(主管：市民課、企画政策課)

マイナンバーカード関係の 2 項目をまとめて発表します。

7 月 31 日までにマイナンバーカードを申請していただいた方には、時価 500 円相当の米山プリンセス 300 グラムをプレゼントします。残念ながらマイナンバーカードが全国的にも普及していない状況ですので、私どももなんとか普及を進めたいと思っています。

また、柏崎市と郵便局の包括連携協定に基づく取り組みとして、県内で初めて郵便局でマイナンバーカードの交付申請ができるようになります。サービスを利用できる郵便局は、新道郵便局と鉢崎郵便局です。タブレットなどを貸し出し、窓口で、ご自分で操作していただきます。

柏崎市のマイナンバーカードの交付率は、6月下旬の見込みで約33パーセントです。県内20市の中では2番目です。1番目は妙高市です。柏崎市の申請率は41パーセントです。今年度の目標は申請率50パーセントですので、いいペースできていると思います。

2 質疑応答

◎新型コロナワクチン接種に関する質問

記者：16 歳から 59 歳までの接種予約は、現段階ではまだ開始の見通しは立っていないという認識でよいか。

市長：はい。

記者：6 月 15 日の臨時記者会見でワクチン供給の見通しはどうか伺ったところ、県の福祉保健部長からも大丈夫だと言われたという話をされたが、この 3 週間余りで状況が一変してしまった原因は何だと思うか。

市長：県の福祉保健部長に関する発言は詳細に覚えていませんが、国は、首相が党首討論で日本国民の接種希望者は 10 月、11 月をめどに接種が終わると話されました。それを聞き、私たちも 10 月下旬を目指して大丈夫なのだと判断し、6 月 15 日の臨時記者会見でお話したところです。

原因が何かというのは私が伺いたいぐらいですが、職域接種の申し込みが想定以上にきたということと、自治体も接種のペースを上げたことによって、結果的にワクチン供給が間に合わなくなったということではないでしょうか。

国は、都道府県には配ってあるが、もしかすると使用されずに止まっているワクチンがあるのではないかという話も出ていたと思います。そうだとするならば、都道府県がそれを把握して、ワクチンは手元にあるが打つ体制が整っていない自治体と、私どものように打つ体制は整っているがワクチンがない自治体とのミスマッチを解消していただきたいと思います。それは県が音頭を取るのか国が最終的に音頭を取るのか分かりませんが、それをしてこなかったがためにこのようになってしまったのではないのかと思います。私どもも、関係者の方々と 10 月末までに終わらせることを前提にスケジュールを組み、予算組みもしています。国からその部分の補償をしていただけないとすると大損害なので、しっかりしていただきたいと思います。一言で言えば、国の見込み違いだと思います。

記者：64 歳以下の接種は 7 月 17 日から開始するという話だが、この分のワクチンは確保で

きているのか。

市長：はい。60 歳から 64 歳までの方々は 7 月 17 日から接種を開始しますが、この方々の 2 回目までのワクチンがあります。理由として、柏崎は多くの方々が企業の職域接種を受けます。職域接種ではモデルナを使いますので、集団接種で使うファイザーは 60 歳から 64 歳の方々の分も確保できているということです。

記者：市長が話されたミスマッチについて、県の体制への指摘などは市町村からできないのか。また、県市長会を通じて県に要請されるということだが、そのような部分も含めて要請されるのか。

市長：あさって、県市町村長全員とオンラインで県との意見交換会が開かれます。私ども市長会の要望書の内容がすでに県にも届いていると思います。要望書の 2 番目の項目は、ワクチンはあるが打つ体制が整っていないケースと、体制は整っているがワクチンがないケースとのミスマッチを解消していただきたいという内容です。県がワクチン接種記録システム、いわゆる VRS を確認できるのであれば、音頭を取っていただき、国にしか確認できないのであれば、国にしっかり音頭を取っていただきたいと思います。いずれにせよ、接種体制が整っているのにワクチンがないという状況を調整してもらいたいと思います。

記者：60 歳から 64 歳の方々は、7 月 17 日から接種を始めていつ頃終わる予定か。

市長：2 回目の接種が 8 月末までに終わる予定です。

記者：59 歳以下の方のワクチン供給が見通せないということだが、具体的に市として何本要求したが、国から提示されたのは何本程度というようなやり取りはあるのか。

市長：16 歳から 64 歳までの方は 40,400 人いらっしゃいますので、ワクチンはその 2 倍の 80,800 回分必要です。細かいところは後ほど担当に確認していただきたいと思います。

河野大臣は 7 月 2 日の会見で、高齢者向け接種の終了後は在庫を使いながら供給に応じた接種スピードの最適化を依頼することになると話されました。分かりやすく言えば、供給ス

ピードが落ちたので、落ちた供給スピードに合わせて接種してくださいということです。いきなり供給スピードが落ちると言われても、私たちはすでに10月下旬に終わるように接種スケジュールを組んで、医師・看護師・薬剤師の方々などをお願いをしています。

記者：先ほど市長の口から損害という言葉も聞かれた。国から早めに接種が終わるよう体制を整えてほしいという依頼があったにもかかわらず、ワクチンの供給が遅れて自治体にしわ寄せがきている状況を、率直にどのように思うか。

市長：繰り返しになりますが、医師・看護師・薬剤師会はじめ医療関係者の方々に大混乱、ご迷惑をお掛けしています。損害という意味では、体制を組み、財政措置をしていますので、その部分が無駄になります。無駄になるようであれば国からしっかり補償してもらいたいと思います。

しかし何よりも大きいのは、首相が国会の場で話されたことが現場で実現できない状況になっていることです。私の立場から見れば、市民の皆さんからの信頼、信用を失うことになりますし、国に対する信頼を失いかねない状況だと思っています。もちろん、オリンピックも含めて国が厳しい状況に置かれている中で頑張っているのは私も承知しているつもりです。しかし、自治体の長としては、市民の皆さんの期待や願いを実現するために国の方向性の通りに動いていたので、それを、最適化をお願いするという一言で対応してもらっては困るということです。

記者：60歳から64歳までの接種開始時期は見込みが付いたと思うが、16歳から59歳のワクチン接種を期待していた方に対して申し訳ないというような思いがあるか。

市長：柏崎にはありませんが、県が設置している大規模接種センターがいくつかありますので、これを柔軟に使っていただきたいと思います。16歳以上の新潟県民であれば接種できるような体制を組んでいただきたいと思いますということを改めて県にもお願いしますが、私たちもできる限り本来来るべきワクチンの供給を国に求めていきますので、今しばらくお待ちいただくしかなく、大変申し訳なく思っています。

記者：今度の市長村長の会議で、県に対して市町村間でワクチンを調整できるように要望す

るということか。

市長：まずそれができるかどうかです。県が VRS を確認できるのであれば、それを基に調整していただきたいと思います。また、県が設置している大規模接種センターで 2、3 日前にまだ余裕があるならば、柏崎市民の皆さんが新潟でも長岡でも上越でも県央でも接種ができるような体制をお願いしたいと思います。

◎モンテネグロとセルビア共和国の水球事前合宿に関する質問

記者：もともと考えられていた市民との交流は実現しなくなるが、今回、事前合宿を柏崎でやる意味はどういうものだと考えているか。

市長：オリンピックと近くで接して、水球の中でトップをいく国の選手たちの練習を目の前で見ることができなくなってしまったので、子どもたちは特に残念に思っていると思います。市民との接点はなくなってしまいましたが、それでもあえて意義を見出すならば、東京 2020 オリンピックのセルビアとモンテネグロの事前合宿がアクアパークで行われたという事実だと思います。そして、ここで行われた事実を私たちが記憶しておくことだと思います。もう一つは、来年福岡県で開催される世界水泳選手権のプレ大会を柏崎で開催する呼び水にしたいというところです。

記者：先般、ウガンダの選手から始まり、先日はセルビアのボート選手の新型コロナウイルス感染症の陽性が確認された。空港での水際対策、その後の国の対応に対する懸念もいろいろ出てきているが、市長は受け入れに当たって改めて何か求める考えはあるか。

市長：セルビアのボート選手の陽性が判明したことに関して、すぐに担当者に確認しました。セルビアからどこか他国へ行って練習して、ギリシャ経由で入ってきたということでした。そうすると、PCR 検査がいつどこで行われたものなのか、PCR 検査の精度も国ややり方によって違うということも含めて、なかなか難しいなと思いました。そして、一般の国民が出国していく中で、オリンピック選手団が入ってきて、同じコーヒーショップやトイレを使ってい

るような事例もテレビに出ていました。一言で言えば、お粗末が過ぎる。今、国民がこれだけオリンピックを開催してもらいたい、もしくはしてもらいたくないと拮抗している中で、水際対策には念には念を入れなければならないはずですが、まだまだ甘い部分があるのではないかと考えています。午前中に起こったことを午後から相談して、決定は明日の朝になるということでは機能しないと思っています。国には、即刻対応するという体制を求めます。

記者：内閣官房が作った受け入れのマニュアルを読むと、自治体には一定の受け入れ責任が生じることが明記されていて、国などの役割はそれに対する助言となっている。そうすると、地方自治体が一番きつい部分を押し付けられているような気がするが、市長はどのように感じるか。

市長：全国の自治体の長は皆さん感じていると思います。そこを国が責任を持たないで地方自治体に押し付けるなら国の存在は何なのか。今回、国際的なパンデミックが生じている中で、これを防ぐのは地方自治体の責任ではない。他国から入ってくることを防ぐことに関しては間違いなく国の責任になる場所だと思いますので、国にしっかりやってもらいたいと思っています。もし、例えばセルビアもしくはモンテネグロの方が空港で1人でも陽性者が出たならば、基本的には空港近辺にとどまっていただき、確実に大丈夫ですという段階になってから柏崎にお越しいただきたいと思います。そのように地元の長が苦労しているということは、担当には伝えてあります。

記者：先日、富山県南砺市でセルビアのボート選手が1人陽性になったケースがあり、南砺市は合宿自体取りやめているが、例えば柏崎市で陽性者が1人でも出た場合、合宿自体を取りやめるという想定はしているか。

市長：あり得ることです。私としては空港に入ってきた段階で1人でも陽性者がいたとするならば、そこにとどめてもらいたい。基本的には1人でも陽性者がいらっしまったならば、柏崎市に来させない、つまり事前合宿はできないという話になりますので、そういったことも考えるべきだと思っています。ただしこれは国やIOCの関係があるので、一地方自治体がそれだけのことを言えるかどうかは分かりません。気持ちとしてはそういうことです。

記者：合宿に来られるセルビアとモンテネグロの総勢 44 人はワクチン接種済みなのか、状況を伺いたい。

スポーツ振興課長：モンテネグロは全員ワクチン接種済みと聞いています。セルビアは現在確認中です。

記者：宿泊先は非公表だが、他の宿泊客と混ざることがあるのか。貸し切りなのか。

市長：柏崎市が担当する宿泊場所は貸し切りです。

記者：柏崎市が担当する宿泊場所は貸し切りということは、どちらかの国は柏崎市が担当するところではない宿泊場所に宿泊するということか。

市長：はい。2 国の選手団が 1 つの宿泊場所に滞在するのは望ましくないということのようです。

記者：それは柏崎市内なのか。

市長：そこは申し上げられません。

◎小学 6 年生の体験航海に関する質問

記者：海から柏崎を見ることによって、小学生からどのように感じてもらいたいと思っているか。

市長：まず、柏崎にも港があるということを再認識してもらいたいと思います。そして、港にこんなに大きな船が入ってきて、こんなに大きな船で海に出られるということを確認してもらいたいと思います。また、柏崎の港はどのような役割を果たしてきたのか、短い間ですが勉強してもらいたいと思っています。沖合から柏崎の町を見るのは、ほとんどの子どもたちは初めてだろうと思います。柏崎の町は大きいと思う方もいれば、小さいと思う方もいて、

それぞれ見える米山も八石も黒姫もみんな違うと思いますので、新しい感覚、初めての経験を楽しみ、自分たちなりに新たな発見をしてもらえれば嬉しいです。

◎東京電力の不祥事に関する質問

記者：工事の未完了の問題とは別に、6号機のいわゆる消化配管も工事が不十分だったという内部からの通報があったが、この状況をどのように受け止めているか。

市長：報道や東京電力から聞いている情報では、今回の事例が安全性に大きな影響を及ぼすものなのか否かは今の段階では判断できません。しかし、それ以上に内部からの通報による情報であるという事実の方が大きいです。昨年末に出てきた ID 不正使用の問題に関しても、結果的には内部の方々からの SNS への書き込みなどが発端になったと聞いています。社員の方、子会社の方、協力企業の方との信頼関係が本当に構築されていたのかどうか、大きな疑問を持っています。何事もそうですが、お互いの信頼関係に基づいて事業や仕事は進むので、その信頼関係が、残念ながら十分なものではないことが証明されてしまったと思います。内部通報というのはどこの仕事でもあると思いますが、過去に東京電力が起こしてきた事案も含めて、他の企業よりも風通しのいい、お互いが信頼関係を結んだ上での仕事をしてもらいたいと強く願います。

記者：今の話は、聞きようによっては内部通報があること自体が問題という受け止め方もできる気がする。内部通報は、一定の公益性などがあれば当然認められるものだと思うし、それ以前に不十分な工事をしていたという事実の方がより大きいと思うが、それ点はどうか。

市長：私の言い方が悪かったと思います。私が申し上げたいのは、内部通報でしかこのような事案が出てこないということが問題だということです。内部通報でしか出てこないということは、お互いの信頼関係がなく、言っても駄目だからこういう手段を選ぼうということになっているわけです。内部通報制度というのは、法などに規定された立派な権利であると、大事な制度であるということは承知しています。

記者：内部通報ということ considering してこのようなかたちで出たが、その姿勢をどのように思

うか。

市長：一貫して申し上げていますが、内部通報であろうと、出どころがどういうものであっても、タイミングを見計らうのではなくて、今の段階で認識している課題は一気に全部出してもらいたいと思います。

記者：最終的に調査が終わる段階ではなく、見つかったという段階でということか。

市長：そうです。

◎第6次エネルギー基本計画に関する質問

記者：先般、政府が原発の建て替えリプレースを推進する方針を明記しない方向で調整しているということで、福井県知事や全原協会長が不満を口にするようなこともあったが、市長はこの政府方針をどのように受け止めているか。

市長：現状を考えればリプレースという言葉を出せる状況ではないと思います。もちろん、将来的な原子力はどうあるべきかという部分は考えなければいけないと思うので、私も考えています。しかし、柏崎刈羽原発の再稼働がままならないままに、具体的にリプレース云々ということを第6次エネルギー基本計画に書き込むレベルではないかなということは、全原協の副会長としても申し入れをするとき、これは全原協としてリプレースを求めるわけではないですよということを総会、役員会に確認して、全原協として意見書を出した経過がありますので、柏崎市長としては今の段階でリプレースという言葉が入らないことはごく当たり前のことではないかと承知しています。そうは言っても、原子力の価値を貶めているとか、軽んじているということではありません。私は、当面の間、原子力は日本にとっても柏崎にとっても意義あるもの、必要なものであるということは重ねて申し上げます。

記者：柏崎刈羽原発1号機の運転開始から36年たち、40年ルールに迫りつつあるが、市長は柏崎刈羽原発におけるリプレースは必要ないという考えか。

市長：そうは申し上げていません。少なくとも、今はリプレース論議を始めるような段階ではないということです。

記者：柏崎刈羽原発のリプレースを行うべきか、行うべきでないかについて、市長の中で決まった考えはあるか。

市長：頭の中にはありません。

◎中越沖地震に関する質問

記者：間もなく中越沖地震が起きた7月16日を迎えるということで、所感や街の様子など、どのように受け止めているか。

市長：私にとって非常に複雑な思いがある地震です。私自身も消防団員として災害対応をさせていただきましたし、亡くなられたお一人お一人の顔も、そのご家族の顔も承知しています。一方、先般、大きな被害を受けたえんま通りでもイベントが開かれましたが、イベントが開ける状況になったことは、市民の皆さん、企業の努力があったからだと思っています。中越沖地震のことを知らない子どもたちもいますので、まちからのアーカイブスを使いながら、柏崎でもこんな地震があったということを教えていかなければならないと思っています。